

ウィリアム・フォークナー：

The Sound and the Fury の
Section I について

森 岡 力

i

The Sound and the Fury は 1929 年に発表された作品である。この作品はアメリカ南部の旧家、Compson 家没落の物語で 4 章から成り、前 3 章は Compson 家 3 人の息子 Benjy, Quentin, Jason のある一日が interior monologue で語られ、最後の 1 章は Compson 家の黒人女の使用人 Dilsey を中心とした客観的描写になっている。*The Sound and the Fury* の原短編のタイトルは manuscript で白痴 Benjy と没落の運命にある Compson 家にふさわしい、⁽¹⁾*Twilight* となっており、最終的には *Macbeth* の中の 1 節 (It is a tale told by an idiot, full of sound and fury, signifying nothing) からとられたと言われる。特に *Macbeth* からとられたタイトル、*The Sound and the Fury* は Benjy の章にふさわしいタイトルと言える。

フォークナーが述べているように、最初 Benjy の章から書き始め、次々と Quentin, Jason, Dilsey の章とつけ足されていったのである。同じ物語を 4 回書きどれも充分でなかったとも述べている。Benjy の章は ⁽²⁾*The*

(1) Robert Penn Warren, *Faulkner* (Englewood Cliffs, N. J.: Prentice-Hall, Inc.), *The Sound and the Fury* by Michael Millgate, P. 94

(2) *Ibid.*, P. 97

Sound and the Fury の prologue であり, epilogue であり,⁽³⁾ hard nucleus of the novel⁽⁴⁾ でもある。小論で私は Benjy の章で白痴の Benjy が interior monologue で表現しているものについて考察してみたい。

ii

Benjy の章は Benjy の幼年時代の security, order, love, warmth から成立していた平和で幸福な世界の喪失に対する Benjy の moaning, bel-lowing であると思う。

現在1928年4月7日から約30年前の Compson 家では秩序と法をもたらず父親, 愛情を惜しみなく注ぐ母親の役割が弱まっているか, 果たされていない。このような状況は2章の Ouentin の monologue で語られている。母親は dungeon にたとえられ, 子供達は不安定な状況にある。

I'd have to turn back to it until the dungeon was Mother herself she and Father upward into weak light holding hands and us lost somewhere below even them without even a ray of light. (P. 172)⁽⁷⁾

母は夫方の Compson 家が governor や generals を輩出していること, Compson 夫人の兄の Maury が Compson 家に居候している上に, 酒浸りで恋愛事件を起したりするために Compson 家に対して引け目を抱いているが, 南部の旧家の体面や pride は忘れることはない。Caddy が Benjy と呼ぶと vulgar だから Benjamine と呼びなさいと言ったり, 自分の娘

(3) André Bleikasten, *The Most Splendid Failure* (New York: Jonathan Cape and Harrison Smith), P. 89.

(4) Irving Howe, *William Faulkner* (Chicago and London: The University of Chicago Press), P. 160.

(5) Edmond L. Volpe, *A Reader's Guide to William Faulkner*, P. 101.

(6) Bleikasten, *op. cit.*, P. 77.

(7) William Faulkner, *The Sound and the Fury*, (London: Chatto & Windus, 1974) 以下ページ数はこのテキストのものである。

に対しては Caddy と呼ばないで Candace と呼んでいる。また Caddy が幼い頃、Benjy を抱こうとすると姿勢が悪くなるからといってたしなめる。Compson 夫人にとっては愛情よりも姿勢が大事なのである。

‘He’s too big for you to carry. You’ll injure your back. All of our women have prided themselves on their carriage. Do you want to look like a washer-woman., (P.61)

Compson 夫人は病弱でぐちっぽく Benjy をやっかい者扱いしている。

‘It’s a judgment on me.’ Mother said. ‘But I’ll be gone too, soon.’ (P.10)

一方、父親の Compson 氏は家をもり立てるような逞しさもなく、アルコールに耽溺し、居候の義兄 Maury をラテン語でからかったりして皮肉っぽく、Caddy の virginity 喪失に対しては、Compson 夫人が Caddy をとがめようとするのに、‘Let her alone’ (P.66) といって鷹揚であるが一面無責任とも思われる対処をしている。しかし、まだ一家の長として父親らしい所はある。

‘You all must be good tonight.’ Father said. ‘And be quiet, so you won’t disturb Mother.’ (P.60)

Caddy は自由奔放な性格であるが Benjy に母親に代る愛情を注ぎ保護的である。Caddy が学校から帰り、Benjy を外に連れ出す時、Compson 夫人と Caddy の会話は対照的である。

‘My poor baby.’ she said. She let me go. ‘You and Versh take good care of him, honey.’

‘Yessum.’ Caddy said. We went out. Caddy said,...

‘You’re not a poor boby. Are you. You’ve got your Caddy. Haven’t you got your Caddy.’ (P.6—7)

次のシーンでは Compson 夫人が Caddy や Compson 氏は Benjy を甘やかしすぎると注言した時 Caddy は次のように言っている。

‘You don’t need to bother with him.’ Caddy said. ‘I like to take

care of him. Don't I, Benjy.' (P. 61)

また Caddy は Compson 夫人とは違って Benjy がクッション, スリッパ, 鏡を好むことを知っていて, それらを用いて Benjy をあやしている。Benjy が泣いたり, わめいたりしている時それらを与えたり, 見せたりすると静かになる。

'Benjamin.' she said. 'Take that cushion away, Candace.'

'He'll cry.' Caddy said.

'Take that cushion away, like I told you.' Mother said. (P. 62)

You can look at the fire and the mirror and the cushion too, Caddy said.

You won't have to wait until supper to look at the cushion, now. (P. 64)

鏡は暖炉の火や居間での子供達の戯れを映し出している。Benjy はそれらの映像を見て喜んでいる。

I could see the fire in the mirror too. Caddy lifted me again.
(P. 60)

Caddy and Jason were fighting in the mirror....

They were all out of the mirror. Only the fire was in it. Like the fire was in a door. (P. 62)

Compson 一家の崩壊の芽を内包しながらも平和な家庭の様子が子供達が小川で無邪気に遊び疲れて就寝するシーンに描かれている。

It went away, and Father looked at Quentin and Jason, then he came and kissed Caddy and put his hand on my head....

Then the dark began to go in smooth, bright shapes, like it always does, even when Caddy says that I have been asleep. (P. 73)

遊び疲れて夕食をし, 就寝する ⁽⁸⁾fixed routine に従っている時の secu-

(8) Volpe, *op cit.*, P. 101.

urity, peace が in smooth bright shape という句にあらわれている。

このような平和なシーンの一方で、家の中では祖母の Damuddy の葬式が行なわれている。夕食のために家に向う途中明りがついているので、祖母の葬式をパーティが行なわれているのではないかと思って Caddy は父から禁じられている木に兄弟の中でただ一人木に登り、家の中の様子をのぞいてみたりする。下からは Caddy の小川の水遊びが原因の the muddy bottom of her drawers を兄弟の Quentin, Jason, Benjy や黒人の子供達が見上げている。

‘Push me up, Versh.’ Caddy said.

‘All right.’ Versh said. ‘You the one going to get whipped. I ain’t.’

He went and pushed Caddy up into the tree to the first limb.

We watched the muddy bottom of her drawers. (P.37)

フォークナーがイメージを拡大していったと言われる the muddy seat
(9)
of a little girl’s drawers, すなわち the muddy bottom of her drawers に Caddy の淪落の将来が暗示されている。幼時の平和なシーンの子供達の会話の中に Damuddy の葬式の話、溝に落ちた牝馬 Nancy が Roskus に射殺され、ハゲ鷹に丸裸にされる話がでてくる。

‘Dogs are dead.’ Caddy said, ‘And when Nancy fell in the ditch and Roskus shot her and the buzzards came and undressed her.’

(P.31)

次に Benjy が白痴で生まれたため、名前が Maury から Benjamine に変えられる Benjy にとって identity の喪失につながるシーンでは、洗礼を意味する雨がしとしと降っていても悲しい雰囲気を与えている。Quentin と Caddy は Benjy に同情しているのがわかる。

... I could hear the roof. It’s still raining, Caddy said. I hate

(9) Meriwether/Millgate, *Lion in the garden* (Lincoln and London: University of Nebraska Press). P.245

rain.

I hate everything. And then her head came into my lap and she was crying, holding me, and I began to cry. (P. 55)

I wish it wouldn't rain, he said. You can't do anything. (P. 64)

奔放な性格であるが情愛豊かな姉の Caddy が成長していくに従って、皮肉にも Benjy から離れていく結果になる。このことは Benjy にとっては central loss, supreme loss⁽¹⁰⁾ であり、受け入れることはできないのである。Benjy は白痴であるだけに一層本能的な、自己中心的な行動をする。Benjy は 13 歳の時 1 人で寝なければならなくなり、Caddy は 14 歳の時化粧を始める。Caddy が化粧をして Benjy を抱こうとすると Benjy は Caddy から逃げわめく。泣きわめくことによって Caddy に起きた変化に抗議している。Caddy が bathroom で化粧を水で洗い落すと Caddy smelled like trees. (P. 40) と表現している。Caddy が Charlie とキスをした時 Benjy は Caddy の dress を引っぱったりする。Charlie が Caddy に近づくと泣きわめき、去ると静かになる。Caddy が流しにいて口を洗うと、化粧を落した時と同じように Caddy smelled like tress. (P. 46) という表現、つまり自然の生成を表わす木の臭いによって Caddy の存在が確しかめられている。Caddy の virginity 喪失のシーンでは Benjy は Caddy の目を見、Caddy は Benjy を見ている。Benjy は Caddy の moral を映す鏡⁽¹²⁾となっている。

We were in the hall. Caddy was still looking at me. Her hand was against her mouth and I saw her eyes and I cried. We went up the stairs. She stopped again, against the wall, looking at me and I cried and she went on and I came on, crying, and she

(10) Volpe, *op. cit.*, P. 102.

(11) Bleikasten, *op. cit.*, P. 76.

(12) Warren, *Mirror Analogues in The Sound and the Fury* by Lawrance Thompson, P. 113.

shrank against the wall, looking at me. She opened the door to her room, but I pulled at her dress and we went to the bathroom and stood against the door, looking at me.. (P.67)

Caddy の Compson 夫人お気に入りの Herbert との結婚式のシーンでは浄化を意味する水と同質の sassprilluh を Benjy と T.P. は, sense of guilt が洗い流されるかのように酔っぱらう程飲んでいるが Benjy は次のように感じている。

... I couldn't smell trees any more and I began to cry. (P.38)

Caddy は Herbert 以外の男の子供を宿していたため離縁され, Caddy のような娘を受け入れることができない旧態依然とした gentility や social position⁽¹³⁾ を重んじる Compson 家から遠ざけられ出奔しているのだが、彼女が結婚した頃 Benjy は以前の Caddy の姿を求めて門の前に立っている。

You can't do no good looking through the gate, T. P. said. Miss Caddy done long ways away. Done got married and left you. You can't do no good, holding to the gate and crying. She can't hear you. (P.49)

かつて, Benjy は, 現在と同じように門の所に立って Caddy が学校から帰ってくるのを迎えていたのである。

Caddy was walking. Then she was running, her booksatchel swinging and jouncing behind her.

'Hello, Benjy.' Caddy said. She opened the gate and came in and stooped down. Caddy smelled like leaves. ... What are you trying to tell Caddy.'

Caddy smelled like trees and like when she says we were asleep. (P.4)

現在も昔と同じように, Caddy が帰ってくるものと思って門の所に立ち,

(13) Cleanth Brooks, *William Faulkner*, (New Haven and London: Yale University Press), P.344.

門の前を通学している少女と昔の Caddy を同一視し、たまたま門が開いていたため、昔と同じように愛情を伝えようとして、言葉で伝えられないだけに本能的直接行動にでたため、逆に castration されてしまうことになる。

They came on. I opened the gate and they stopped, turning.

I was trying to say, and I caught her, trying to say, and she screamed and I was trying to say and trying ... (P.51)

この頃 Quentin は自殺し、Compson 氏も死亡する。このような状況の上に Caddy の名前が口にできないような Compson 家のことを黒人の召使 Roskus が吐露している。

'They ain't no luck going be on no place where one of they own chillens' name ain't never spoke.' (P.29)

Benjy には情愛深い Caddy も、Compson 夫人は Benjy 同様家名を汚す者として見なしている。また物理的な Compson 家そのものも荒れかかっている様子が描かれている。

You ain't got no spotted pony to ride now, Luster said. The floor was dry and dusty. The roof was falling. The slanting holes were full of spinning yellow. (P.10)

現在では、かつては Compson 家の所有であり、Benjy の愛した pasture が Quentin を Harvard にやる資金を得るため売られ、ゴルフ・コースに変っている。Benjy が現在でも Compson 家の pasture だと思っているゴルフ・コースの fence 沿いに Benjy は黒人の子守役 Luster に連れられて散歩している時、ゴルファーの 'caddie' という言葉から Caddy を連想し、泣きわめく。つまり垣根の向う側のゴルフ・コースに Caddy がいると思っているのだろう。このゴルフ・コースは Benjy によって pasture や bright grass という言葉がしばしば使れているように lost Eden of childhood⁽¹⁴⁾ を象徴していて、fence によって現在の Compson 家から遮断さ

(14) Bleikastin, *op. cit.*, P.81.

れている。又 Benjy は、黒人の子守役によってこの fence から出て行かないよう二重に監視されている。現在の Compson 家には、利己主義的で Benjy を castration をさせた Jason, 病身で冷淡な Compson 夫人, Benjy, Caddy の私生児 Miss Quentin, 黒人女の召使 Dilsey などがある。Dilsey は孫で Benjy の子守役 Luster が Benjy にいたずらしたりしていると叱ったり, Benjy の相手をしたり, Compson 夫人の無理な頼みにも不平を言わず聞き入れ, その間にも Compson 家の食事を用意したりする。Miss Quentin が Compson 家に預けられると今まで Compson 家の子供を育ててきたように何の負担も感じることなく育てる。Compson 家の状況から Miss Quentin が男遊びする少女に育つのは当然だが, Jason が彼女を詰問するとかばったり, 慰めたりする。Compson 家は Compson 家の変遷にもかかわらず, 育児, 家事を犠牲的精神で引き受けている Dilsey によって辛うじて支えられている。Jason は Caddy や Benjy を Compson 夫人と同じように Compson 家の名誉を汚す者達と考えているので, Miss Quentin にはつらく当たり, Quentin が町に来ている, けばけばしいが情熱的な色でもある, 赤いネクタイをした pitchman と遊びまわっていることで口論する。Jason は, Luster が失くしてしまったショーを見に行くための代金 25 セントを彼に求めた時, 強く断わる。この Luster の失くしたショーの代金を与えてやった Miss Quentin は夜, 彼女自身が *I hate this house. I'm going to run away.* (P. 69) といっていたように窓から出て, かつて Caddy が家の中の葬式の様子を見た木から伝い下りて現在の情愛のない Compson 家から逃げ出して行く。Benjy の心を慰めるものは, 皮肉にもかつて Caddy が Benjy をあやすために用いたスリッパ, クッション, 火である。しかし, Benjy がそれらの映像を見ることによって喜びを倍加した鏡は己に居間にはない。唯一の許可された遠出は, 木の臭ではなく nasty smell のする jimson weed を手にした死者の眠る墓地への墓参りである。このように Benjy にとって様々な loss が描かれているが, Caddy を中心とした平和で幸福な世界の喪失が Benjy にとって central loss, su-

preme loss であったと言えるだろう。

※

白痴で deaf, dumb の Benjy の 33 回目の誕生日 1928 年 4 月 7 日の午後から就寝するまでの「意識の流れ」が一人称の interior monologue で描かれている。Benjy は白痴といっても, literally の意味でなく, literary の意味で白痴なのである。⁽¹⁵⁾なぜなら実際には Benjy 言葉を伝達できないのだが, 伝達できるものとして彼は感覚的表現をしたり, 他人の発言をテープ・レコーダーのように再成し, monologue というより, polylogue を作りあげている。⁽¹⁶⁾文章は短かく, kernel sentence ⁽¹⁷⁾と言われるようなもので, 代名詞は余り使われることはなく, Luster said のように個有名詞が最後まで使れている。

Benjy は黒人の子守役 Luster に連れられて, ゴルフ・コースのそば, 小川, 家の中へと移動しながら interior monologue を行なっている。

Benjy の反応は感覚的で動物的である。例をあげてみることにする。

If flapped on the bright grass and the trees. (P.2)

We could hear us. We could hear the dark. (P.73)

I could smell the cold. The gate was cold. (P.4)

'He know lot more than folks thinks.' Roskus said.

'He knowed they time was coming, like that pointer done.

(P.29)

33 歳の現在ゴルフ・コースに沿って歩いていた時 fence の釘に服を引っかけ, これと同じ 28 年前の経験を思い出す。

'You snagged on that nail again. Can't you never crawl through here without snagging on that nail.'

(15) *Ibid.*, P.67.

(16) *Ibid.*, P.68.

(17) *Ibid.*, P.69.

Caddy uncaught me and we crawled through. (P.2)

同じ cow という語から, Benjy が幼少時のシーンから少年のシーンに移っている。

Roskus was milking the cow in the barn door.

The cows came jumping out of the barn. (P.18)

同じ例では hill という語から, Benjy の少年期のシーンから幼少時のシーンに変化している。

I went on with them, up the bright hill.

At the top of the hill Versh put me down. (P.20)

このように Benjy の意識の中に 15 のシーンが長短の断片とな⁽¹⁸⁾って, 入れ代り立ち代り現れ, 混乱の様相を呈する。しかし, 比較的大きなシーンは現在のシーン, Damuddy の葬式のシーン, Benjy の名前のつけ変えのシーンで, それらの中に挿入されている断片を除けば筋もあり, chronological に進んでいる。

シーン変化において注意しなければならないのは, 現在と過去のシーンが parallel 又は counterpoint に配置され, 類似点, 相違点が明らかにされていることである。例えば, ほぼ同じコースを喚きながら迎える現在の Luster に連れられて Benjy が家の中に入るシーンと Compson 家の子供達が夜になり家の中に入る平和で幸福なシーン。

'Now, git in that water and play and see can you stop that slobbering and moaning.'

I hushed and got in the water and Roskus came and said to come to supper and Caddy said, (P.15)

次は Benjy が Caddy を学校から帰ってくるのを門の所で出迎えているシーンと現在のシーン。

'... What are you trying to tell Caddy,'

(18) Volpe, *op. cit.*, P.91.

Caddy smelled like trees and like when she says we were asleep.

What are you moaning about, Luster said. ... (P.4)

林の中での Caddy と Charlie のキス・シーンと Miss Quentin と pitchman の抱擁シーン。

I could see the swing and I began to cry.

Come away from there, Benjy, Luster said. You know Miss Quentin going to get mad. (P.44)

特に後半はシーンの変化が頻繁に行なわれている。69 ページだけでも現在一過去一現在一過去一現在一過去一現在一過去一現在一過去一となっている。過去と比較することによって現在の Compson 家の不毛性と過去の喪失感を一層強く表現するのに役立っている。

シーンが変る合図として、フォークナーは初め文字をシーンが変るごとに異なった色にしようと思ったと言われるが、⁽¹⁹⁾最終的には、文字をローマン体からイタリック体にしたり、その逆にしたりしている。ローマン体のままでシーンが変化している場合もある。イタリック体からローマン体になってもシーンが変化しない場合がある。これはイメージの顕在化の働きをしている。

Jason came in.

I kept telling you to hush, Luster said.

What's the matter now, Jason said.

'He just trying hisself.' Luster said. 'That the way he been going on all day. (P.63)

シーンのシグナルとしては名前つけかえのシーンでは We could hear the roof and the fire. という文が用いられ、Caddy の結婚式のシーンでは veil, sassprillah, whooeey という語が用いられている。

(19) Warren, Millgate, *op. cit.*, P.100.

chronology の工夫としては、Benjy の黒人の子守役が Benjy の幼年期、少年期、現在に応じて Versh-T. P.-Luster と代っていることである。またシーンの中に Benjy, Quentin, Caddy の年齢が書かれていたりする。

‘Come on, now.’ Dilsey said, ‘You too big to sleep with folks. You a big boy now. Thirteen years old. Big enough to sleep by yourself in Uncle Maury’s room.’ (P. 41)

‘I’m seven years old.’ Caddy said, ‘I guess I know.’ ‘I’m older than that.’ Quentin said. ‘I go to school. Don’t I, Versh.’

‘I’m going to school next year.’ Caddy said, (P. 16)

‘Just because you are fourteen, you think you’re grown up, don’t you.’ Jason said (P. 39)

現在のシーンにおいて、manuscript で全くなかった Benjy の誕生日、Benjy の年齢、Luster の失くしたショーへ行くための quarter の検索は typescript や published text においてつけ加えられたと言われる。⁽²⁰⁾ Benjy の「意識の流れ」を描くために、フォークナーは一見混乱を描きながら、当然のことであるが chronology に留意し、それを制御していたことがわかる。

(20) *Ibid.*, P. 99.